

特集

これからの農業を女性目線で考える 農業に関わっている女性に聞きました

市民と議会をつなぐ特集ページです。
今回は、菊川で様々な形で農業に関わっている女性から、仕事の楽しさ、こだわり、持続可能な菊川の農業への思いについて聴きました。

「女性目線で面白い」と気づき、本当の豊かさを求める。」

〈農業の魅力・力を入れるところ・楽しいことは？〉

- ・農業は栽培のみと思っていたが、実際は商品を売らなくてはいけない、どうデザインして売っていくのか。緑茶を飲んでもらえない世代に茶葉に親しんでもらうため、[※]菊川ジュニアブレッジでハーブティを販売している。子ども達が農業ビジネスを体験する中で自分の得意分野を認める瞬間があり、それが自信につながる事が実感できる。地域で産業を支える人材に育ってほしい。
- ・東京から戻り、自然農を実践している。畑の外から極力資材を持ち込まない。農薬や化学肥料、除草剤も使わない。草を刈って寝かせ、土を裸にしない。自然の循環を再現することで、病害虫の発生を抑える。気持ち良い草や生き物がたくさんいる野原。大好きな野原や山がお手本の畑で育てている。
- ・東京ではパソコン漬けの生活。菊川に来て植物の成長を見守り、健康を気にして早寝早起きをするようになり、自然と一緒に生きていく。体のために有機野菜を食べているが、少し高くても栄養価が高く、量を摂らなくても満足できる。都会の生活とは違った喜びを言葉にして行きたい。
- ・茶工場の労務・経理管理を担当している。農業を通して人と身近に接することができ、様々な方とコミュニケーションが取れることが楽しい。農家の方と関わり、たくさんの知識を学ばせてもらっている。
- ・野菜を大量に扱うバイヤー。子ども達のためにも「無添加は当たり前」というコンセプトで、生産者の思いをお客様に伝えるお店を菊川に新たにオープン、予想以上のお客様が来店してくれている。
- ・「自分が何をやりたいのか」がぶれずに、女性目線であちこちで行われている面白いこ

とに気づき、それが広がることで本当の豊かさを求めて行くことにつながる。



※「菊川ジュニアブレッジ」とは、小・中学生が1年間を通して農業を通じた経営・企業を経験する活動。コミュニケーション力や責任力、課題解決力、金銭感覚など未来を生き抜く力を身につけることが狙い。